

令和元年度第1回伏見区基本計画推進区民会議 会議録

日時 令和元年6月3日

午前10時開会 午後11時50分閉会

場所 伏見区役所1階ホール

次 第

1 開会

区長あいさつ

馬屋原区長から開会のあいさつを行った。

- ・ 区民会議委員の皆様には、各界、各層でのリーダーとして様々な分野で地域のまちづくりにとご尽力いただくとともに、広く伏見区政、京都市政の推進にご理解・ご協力賜りお礼申し上げます。
- ・ 2025年大阪・関西万博誘致の中心的役割を担っていただいている橋爪座長に改めて敬意を表し感謝申し上げますとともに、関西万博の意義、伏見が果たすべき役割などご指導いただければ幸いです。
- ・ 基本計画策定から9年目。計画期間も残り2年を切った。
基本計画に基づいた区役所・支所の取組とともに令和3年度から新たな伏見のまちづくりの指針となる次期基本計画の策定に向けた取組について、この場でみなさまのご意見を賜りたい。
- ・ 新たな令和の時代を迎えてひと月。令和には「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」といった意味が込められている。区役所・支所職員が丸一となって文化を基軸にあらゆる政策を融合させ、文化力で伏見を元気にするという決意のもと、安心安全な魅力あふれる伏見のまちづくりに全力を尽くしてまいる。

委員紹介

委員の自己紹介を行った。

座長あいさつ

議題の審議に先立ち、橋爪座長からあいさつを行った。

- ・ 先ほど区長からご紹介があったが、2025年日本万国博覧会、愛称「大阪・関西万博」が開催される。私は、最初から基本計画の構想立案に関わり、無事に誘致に成功した。お礼申し上げます。現在は、具体化の案を作っている。博覧会の事務総長が着任され、この夏から本格始動する。私が具体化のワーキングのまとめ役をして、全国で100人ほどの意見をまとめているところ。昨日、関西広域連合のヒアリングを行ったところ、行政の共同出展による関西館を出したいとの声があった。もう1つは、兵庫県などはサテライト会場などができないか、というお話があった。加えて、神戸空港からシャトル船を出したいといった話もあった。愛知博の時も名古屋で2か所ほど、連携イベントが展開されていた。大阪で開催される時には、京都・伏見でも関連する催事があればよいと思う。
- ・ 先週、京都の財界の方々と話し、70年万博では、有名な漬物屋さんが瓶詰めの漬物を作ったそうである。長期間保存できるようなものを博覧会の時に作った。「命輝く未来社会のデザイン」がテーマであり、世界中の人々が充足できる暮ら

しができる世界の人々の国際化に寄与する機会になればと思っている。

- ・ 我々の世代、私は 58 歳であるが、子どもの時の万博の印象が強い。しかし、今の 10 代、20 代、30 代の方々は博覧会への関心が薄く、世界の若い人たち同士がつながるような機会になればと思っている。伏見が酒や名産を売ることも大事だと思う。
- ・ 京都芸術花火があり、会場に私も行った。関西で一番早い花火で今年も 27,000 人の来場があった。花火大会はどこでどんな人たちが見ているのか経済波及効果が計り知れぬものの、非常に美しく、他の花火大会よりも芸術的だった。伏見の名物になればと思う。
- ・ 国際観光については、今後、ますます伸びてゆくと思われる。
宿泊税の使い方が注目されるところで、次の観光振興計画を作る際には、住んでいる方と観光客が共に良い暮らしをできるような視点も重要である。また、オーバーツーリズムという言葉が課題になっている。住んでいる方と観光客が抱える課題が解決できるような持続的な発展を望んでいる。
- ・ 私事だが、京阪電鉄ホールディングスの社外取締役を担うこととなった。
現行の基本計画と次期の基本計画をこの区民会議の場で議論しながら進めていくので、よろしくお願いします。

2 議題

(1) 平成 31 年度伏見区運営方針について

ア 三所の共同事業【資料 1】

伏見区役所、深草支所、醍醐支所の三所共同で行う事業概要について、事務局（川本企画課長）から説明。

<質疑>

橋爪座長

- ・ レジリエントというのは従来の防災とは異なり、災害が起きた時にどのように回復するか対策を立てておくという新しい考え方である。
政府の方でも土砂災害の警戒区域について進められていて、事前にここが危険だというようなことを従来よりも考えている。
- ・ SDGs については、2030 年までに世界で達成すべき 17 の目標があり、まだ数値目標ができていないものが多い。ただ都市や地域でそれぞれに取組を進めており、京都市はかなり熱心に取り組んでいる。市長が羽織に SDGs を刺繍されていたり、目に見えるかたちで「持続可能性」について考えておられる。

イ 区役所・支所の主な取組（新規・充実事業など）

伏見区役所の主な取組【資料 2】について、事務局（川本企画課長）から説明。

<質疑>

馬場委員

- ・ 伏見 文化・観光語り部について。伏見の観光のために良い取組だと思う。
山の伏見 A と B の 2 コースがあり、桃山城もある。去年の台風で天守閣の鯨が飛んでしまった。この現実を元の形に戻すというのが基本だと思うが、区役所の基本的な考えはどうか。

事務局（川本課長）

- ・ 所管は、文化市民局市民スポーツ振興室であり、民間企業の力を活用して何か事業ができないか現地調査をしているが、なかなか決定までに至らない状況である。伏見のシンボルである天守閣のまま有効活用できるようなアイデアを募っているところで、区役所としても、伏見桃山城は伏見のシンボルということで有効活用できるようにしたい。

橋爪座長

- ・ 民間事業者に活用してもらいたいということであるが、修繕も含めてどのように考えているのか

馬屋原委員

- ・ 模擬天守である伏見桃山城は、全国的にも評価は高い。伏見のシンボルとして、なんとかしたいという区民の想いもあり、「ふしぎく」のメンバーを中心に、お城まつり等の取組を通じて、魅力の情報発信に努めていただいている。敷地は運動公園であり、都市公園法や市街化調整区域等により制約がある中で、民間事業者等から活用に向けた提案をいただいていると聞いている。現行の基本計画にも伏見城や淀城の有効活用を掲げており、区役所としてもしっかり検討してまいる。

橋爪座長

- ・ 建物は50年経つと登録文化財になる可能性がある。伏見桃山城も1960年代の建物で、それ以降に生まれた方には、生まれたときからあの建物があるということで愛着がある。作り物だと言われながらも50年経っている。

馬場委員

- ・ 完全に活用されていないように感じる。まずは、元の姿に戻すことが基本だと思う。そのためには民間の力も必要と思うので、よろしく願いたい。

加藤委員

- ・ レジリエンスという言葉が掲げられている。この言葉はゴムまりを押したら元に戻る力あるいは、復元力や弾力という意味がある。防災や災害が起きた時にどれだけの回復力があるかということが、レジリエンスシティだと思う。
- ・ 私が専門の精神保健の分野では、心のゆとりのようなものをレジリエンスと言う。「楽天的に生きて行く」とも表すが、何よりもレジリエンスは人とのつながりである。人のつながりとは、会話力であり、若い人たちを中心にその力が失われている。
- ・ 昨今、問題になっているひきこもりにしても今年3月の内閣府の統計では、15-39歳で54万1千人、40-64歳以上で61万3千人の引きこもりがいていわれている。ある意味で追い込まれて来ている。そういったことについて、子ども育みプロジェクトをはじめとして、会話力を地域でどう育んでいくのか、特に高齢の方々は自然に身につけており、関西の人たちはしゃべることを大事にしてきた文化もある。世代間交流を意図的、組織的に推進して伏見区がトッランナーになればと思う。

橋爪座長

- ・ 世代というと、横のつながりが意識されるが、縦のつながりも重要である。

菱田委員

- ・ 実家が商店をしている関係上、明るい時間に道路がいることが多い。高齢の方がよく転ぶ。助けようと思っても、非力な人間1人では抱えられない。介護の仕事をしたことがないので、どのように介助すれば立ち上がれるのか分からない。防災とは違うかもしれないが、防災訓練などで練習できれば助けるほうも助けられるほうも楽になるのではないかと思う。

寺内委員

- ・ 健康長寿のまちづくりの推進でソフト面では充実しているが、ハード面で道路が斜めになっていたり御香宮のあたりも道の端が下がっている道路が多いように思う。地元の墨染もそうだが、車いすやベビーカー、草履で履くときも斜めになっていて歩きづらいので道路の整備もお願いしたい。

田中室長

- ・ 伏見区運営方針9ページに記載している安心安全にらせる環境づくりにおいて、駅等のバリアフリー化、京阪藤森、桃山御陵前の道路のバリアフリー化の事業を推進している。道路は、地下に水道管やガスパを入れたりする中で、斜めになる場合もあるが、建設局、都市計画局を中心として限られた予算の中であるが、道路状況を改善している。

馬屋原区長

- ・ 市政協力委員会が出す要望の中でも多いのが道路問題である。緊急な措置が必要な場合は、早急に対応しているが、すべての個所の改善が進んでいる状況ではない。しっかりと区民の声を聞き、引き続き取り組む。建設局の「みつけ隊」の制度の活用をはじめ、小さいことでも結構なので、区役所に声を届けて欲しい。

深草支所の主な取組【資料3】について事務局（加藤まちづくり推進課長、長谷川大岩街道周辺地域環境整備課長）から説明。

橋爪座長

- ・ レジリエンスの要素でもコミュニケーションが大事である。
また深草支所でもレジリエンスのまちづくりが進められており、大岩街道の取組もようやく進んできた。

醍醐支所の主な取組【資料5】について事務局（水谷総務・防災課長）から説明。

<質疑なし>

(2) 次期伏見区基本計画の策定に向けた取組について

ア 次期伏見区基本計画策定方針【資料5】

イ 京都市伏見区基本計画推進区民会議開催要綱の改正【資料6】

事務局（川本企画課長）から説明。

橋爪座長

- ・ 伏見区の計画は、これまで10年計画を2回作成して20年目が終わろうとしている。次期の基本計画も策定期間は10年の想定だが、京都市のグランドビジョンが残り5年なので、区もそれに合わせた計画期間となる。

当時は、総合庁舎、大岩街道が大きなテーマであり、人口が増えるという話もあったが、10年経つと高齢化が進んでおり前提が違ってきている。今回もデータを集め分析しながら進めていくことになる。地域別、各種団体についてワーキングも設置していく。次回10月と来年5月の会議が重要になってくる。

大濱委員

- ・ 基本計画の策定では、まずは地域に住んでいる人々が中心になるが、昨年、京都市では地域企業宣言があった。規模の大小に関わらず、企業も地域に根差したまちづくりには欠かせないものであると考えている。

今年度の方針にも、レジリエントシティやSDGsも掲げられており、今後、次期基本計画の策定を進めるにあたり、中小企業や企業団体の意見聴取はどのようにされるのか具体的に聞きたい。

事務局（川本課長）

- ・ 既存の会議等を活用しつつ、意見を積極的に伺うことを考えている。例えば、支部の会合の場で会員の意見をお聞きする等、機会を捉えて意見を聞ければと思う。

橋爪座長

- ・ 各種団体もぜひ関わっていただければと思う。次回の区民会議でデータ等もでくるので、その先の骨子案に意見を取り入れられればと思う。

企業区民、伏見に住んでいなくても働いている方々の意見も大事だと思う。

また、大学生の意見など若い世帯の意見が反映されにくいことがあるので、この点も検討できれば良い。

次期基本計画の策定期間は5年と短めであるが、10年、20年の先を見据えた計画になれば良い。

意見交換

三木委員

- ・ 全体を通しての3点の意見がある。
 - 1 点目は区民活動支援事業の取組について。これまで様々な事業が展開されている。市民活動においては、評価がキーワードであり、成果志向の考えが出てきている。助成金を獲得した団体の評価が大事になってきており、全ての市民活動において成果を図るのは難しいが、助成金採択団体の評価をすることやその後の支援の在り方も

大事である。

2 点目は自治会支援について。センター設立が 9 年目であり、始めは有志団体からの相談が多かったが、昨年 1 年間で自治会や町内会からの相談が多くなってきた。地藏盆の出し物についての小さな相談から、解散したいという相談も増えて来た。委員の方々はご活躍されていると感じるが、地域の自治組織の支援をどのようにするか、次のワーキングの中で取り上げられたらと思う。

3 点目は子どもの居場所について。行政が取り組む子どもの居場所が明確に分かっているようで保護者が良いなと思う居場所になっている。ただ、民間事業者による子どもの居場所づくりが増えてきているが、ビジネスと連動しているところがみられ、せっかくできた母親同士のつながりがある商品を買わないといけない等の事例もあり、友達ごと失ったとも聞く。

居場所づくりにおいては、行政の取組とビジネスとの明確の線引きも必要になってきている。

矢部委員

- ・ 桃山東学区に暮らしている。JR 奈良線の複線化について JR には避難道として測道をつけていただくことを要望してきた。JR の敷地については了解を得ているが、その他の京都府の敷地等について京都府・京都市にご協力いただければ避難道はできないので協力をよろしくお願いする。

小倉委員

- ・ 地域力について。どの地域も高齢化が進んでおり、地域で何かをするのが難しくなっている。各学校で PTA やおやじの会があり、地域の子どもたちを巻き込んで、若いうちから育てていくことが必要。

10 月に防災キャンプを企画している。子どもたちが自主的に避難所を設営したり、食事を作っていく内容である。区役所等にも協力してもらいつつ、若いうちから防災、防犯などを考えていくことで、子どもたちが中学生や高校生になった時に地域力が上がって行くと思う。

各種団体の長をはじめ皆さんが高齢化になり動けなくなっている。

自主防災会の訓練があるが、夏の平日の昼間にやる。そのような時期に誰が出て行くのか。こういったことから見直す必要があると思う。

村瀬委員

- ・ 歩道について。車いすやお年寄りの乳母車などは斜めになった歩道を歩くのは、とても危ない。要望を出してはいるが、なかなか予算措置がされない。歩くまち京都と言うが、下鳥羽はなかなか歩くのが不便な場所である。
- ・ また、健康長寿について社会福祉協議会でも取り組んでいるが、区役所に来るにも 1 時間にバスが 2 本しかない等、交通が不便なのでお年寄りが出かけたくても出かけられない状況があるので、側面的なサポートが必要である。

馬屋原委員

- ・ 様々な課題をいただいた。区民活動支援事業については、区の財源の 1/4 以上を使った事業であり、創設 8 年目を迎え、支援事業の評価・検証の時期にきている。

- ・ また、市民活動の相談は、今まで NPO 等の志縁組織が多かったが、地縁組織からの相談が多くなってきており、地域の担い手不足や地域コミュニティの希薄化に伴う課題については、次期計画策定の際にも重要なポイントになってくると考えている。
- ・ 居場所づくりの中でのビジネスの連動の件であるが、ビジネスの視点を排除するわけではないが、それぞれの取組での検証が必要である。
- ・ 様々なご意見をいただいたが、改めて、個別に回答させていただく。

3 閉会

副座長あいさつ

村井副座長から閉会のあいさつを行った。

- ・ 万博の他、様々な分野でご活躍されている橋爪座長に座長でいただいていることは心強くありがたい。

今回、レジリエントやSDG s 等も出てきたが、年 1~2 回の会議の開催で報告を受けて、その後どうなっているのか少し不十分に感じる。一度、区長や我々を含めて検討していただけたらと思う。

橋爪先生のリーダーシップを存分に活かしていただけたらと思う。万博についても伏見らしい関連を持てたら良い。

まとめではないが、今後とも伏見を絶えず気にしていただけたらありがたい。

橋爪座長

- ・ 会場は夢洲であり、橋と鉄道が少なく船でアクセスしなければならない。伏見からも船で行ければ良い。

万博も最初は、健康長寿の万博を掲げていたが、世界を見渡すとまだまだ健康長寿がじっくり来る訳ではなく高齢者に向けた印象になってしまうので、命輝くというものにした。

伏見の未来に向けても、誰 1 人取り残さない次期計画、あるいは、その先の未来に向けて考えることをお願いしたい。